

1 単元名

「第1章 私たちと現代社会 第1節 現代社会の特色と私たち」

2 単元目標

- (1) 現代社会の特色について理解を深め、資料から有用な情報を適切に選択し、活用することができる。【知識・技能】
- (2) 現代社会の特色が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現することができる。【思考・判断・表現】
- (3) 現代社会の特色に対する関心を高め、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

3 バイカルチャラルの資質育成との関連

発展的な学習として、日本の学習指導要領に基づいて学習した内容について追究課題を設定し、中国の視点からも追究、考察したり、両国を比較、関連付けたりする活動を取り入れた。この活動を通し、多角的な視点からものごとを捉え、自分自身の考えを確立して、適切に表現する力の育成につなげていきたい。

4 児童生徒の実態について

本学級は、男子2名、女子1名、計3名である。積極的な生徒が多く、授業では活発な話合いや発表が見られる。その一方で、資料を根拠として考察することや、複数の資料を比較・関連付けて考察することに課題が見られる。また、全員が国際結婚家庭の生徒であり、中国での滞在歴も長い。しかし、日本人学校では、日本国内と同様に日本の学習指導要領に基づき、学習を進めていくため、現地について学習する機会は少なく、地理的事象や歴史、政治等について知らない生徒が多い。そこで、中国への関心や理解を深め、国際感覚を磨くきっかけとするために、社会的事象を日本の視点からだけではなく、中国の視点からも追究、考察する活動を発展的な学習として設定した。学習を通し、学習指導要領にある社会科の目標「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察」できるとともに、「国際社会に生きる平和で見ん素敵な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養」うことにつながると考え、授業を展開した。

5 単元について

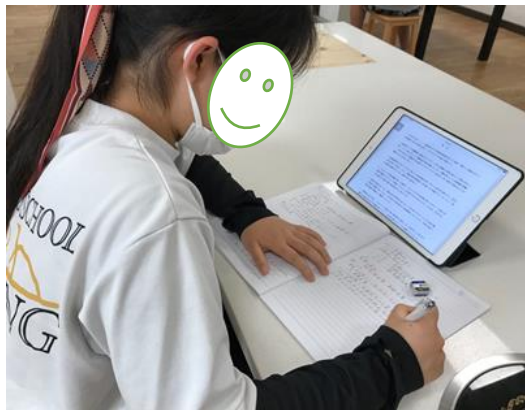
本単元は、学習指導要領の公民的分野「A 私たちと現代社会」の中項目「(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色」を受けて設定している。次の中項目「(2) 現代社会をとらえる見方や考え方」とともに 公民的分野の導入として位置づけられている。現代社会の特色を理解するとともに、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みについて、具体的な社会生活と関連付けながら理解し、以後の政治、経済、国際社会の学習の導入とすることを主なねらいとして

いる。また、教科書では主に、日本の視点から現代社会の特色や現代社会における文化について追究し、理解を深めていくように構成されている。中国について理解を深めるために、少子高齢化や情報化について、インターネットを用いて中国の現状について調べ、日本と比較する活動を発展的な学習として設定した。

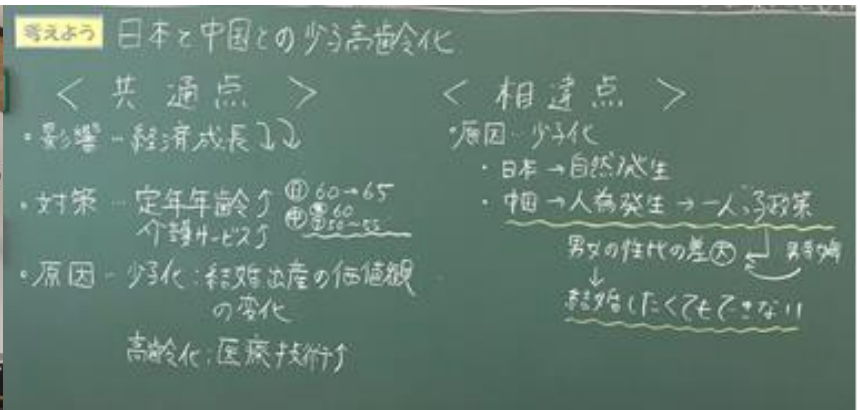
6 単元構成（総時数4時間）

時数	【学習活動】	【ポイント】 ◆バイカルチュラルの視点	【備考】
第1時	「持続可能な社会に向けて」 ●持続可能な社会の実現に必要なことについて、社会参画と関連付けて考察し、表現する。		
第2時	「グローバル化」 ●グローバル化の進展によって、社会や生活がどのように変化しているのか調べる。 ●グローバル化の進展によるメリット・デメリットを考察する。	◆小集団での学び合いを通し、グローバル化の進展による影響を捉える。	
第3時	「少子高齢化」 ●少子高齢化の原因や影響、対策について調べ、日本と中国の共通点と相違点を考察する。	◆中国の少子高齢化の原因や影響、対策について調べる。 ◆調べたことをもとに、既習事項である日本と比較し、少子高齢化について、両国の共通点と相違点を考察する。	インターネットによる探求活動
第4時	「情報化」 ●情報化の進んだ背景や情報化の進展に伴う変化について調べ、日本と中国との共通点と相違点を考察する。	◆中国の情報化の進んだ背景や情報化の進展に伴う変化について調べる。 ◆調べたことをもとに、既習事項である日本と比較し、情報化について、両国の共通点と相違点を考察する。	インターネットによる探求活動

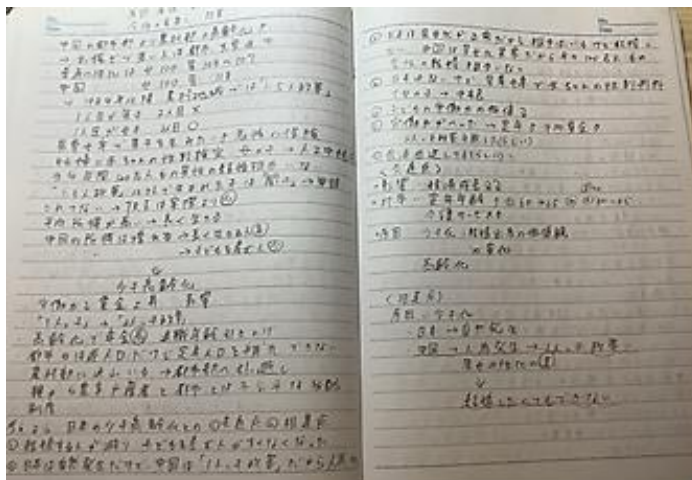
7 資料



調べ学習の様子



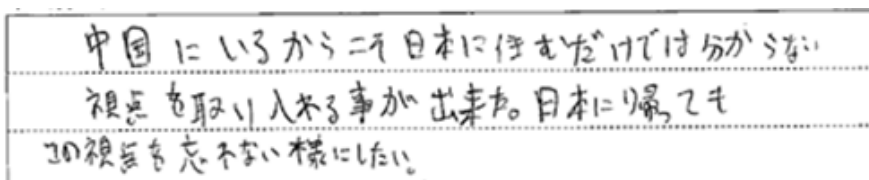
板書による整理・共有



生徒のノート



話し合い活動の様子



生徒の振り返り

8 考察

【成果】

- ◆社会的事象を日本の視点からだけではなく、中国の視点からも調べ、日本と比較することで、中国と日本との繋がりを実感したり、理解を深めたりすることにつながった。
- ◆探究活動では、教科書や資料集だけでなく、インターネットを活用して行った。中国語に堪能な生徒は、中国語で書かれたサイト等を活用して調査を進めたり、他の生徒に教えたりしていた。語学力を生かすことで自己肯定感や自信を高めることができた。
- ◆少子高齢化の原因や情報化が進んだ背景について、日本と中国の相違点として、国の政治体制の違いがあげられた。特に少子高齢化については、日本や中国がそれぞれどのような対応をしているのか社会福祉制度の違いについて新たな疑問も出てきた。今回の学習を通して、中国と日本の両国の社会的事象について関心を高めることにつながった。また、今回出てきた疑問については、この後の学習内容である「B 私たちと経済」の中項目「(2) 国民の生活と政府の役割」や「C 私たちと政治」の中項目「(2) 民主政治と政治参加」を学習した際に取り上げることで、両国の国のしくみや政治等の違いについて、理解を深めることができた。

【課題】

- ◆追究活動を行っていく際に、資料の収集の難しさがある。情報規制により、日本のサイトの制限があり、思うように情報収集ができない。また、中国語は話せるが読み書きができない生徒もあり、現地の資料を活用する上で難しさがあった。
- ◆今後も生徒たちの生活圏である中国について理解を深めていくためには、社会科だけではなく、他教科と連携するなど、継続して学びの場を設定していくことが必要であると考ええる。

【まとめ】

本活動を通して、社会的事象を日本の視点からだけではなく、中国の視点からも追究、考察することで、社会的事象を多面的・多角的にとらえるとともに、中国への関心や理解も深めることができた。生活圏である中国について理解を深めることで、バイカルチュラルの資質の育成につなげることができたと考ええる。